

項目		内容	実績																																																																																	
生	1. 国内	(1) 生産・処理動向調査((一社) 日本食鳥協会3月下旬実施)によると、2月の推計実績は、閏年の影響があるものの前月同様に気候が平年より高めに推移し増体が順調であったこと等から処理羽数59,621千羽(前年比107.2%)・処理重量178.2千t(同108.2%)と羽数・重量とも前年を大幅に上回った。前月時点の計画値(処理羽数(同107.0%)・処理重量(同107.3%))と比較しても若干上振れた。特に北部九州地区(同108.1%)・南九州地区(同109.4%)の処理重量の伸びが大きかった。また、2月の生鳥処分は疾病等での廃棄合計3.98%(前年差+0.12%)と微増した。 (2) 3月計画は処理羽数(前年比101.9%)・処理重量(同102.6%)、4月計画も処理羽数(同102.9%)・処理重量(同101.9%)と前年を2〜2.5%程度上回る見通しとなっているものの、5月については大型連休もあり稼働日が減少するため処理羽数(同99.8%)処理重量(同97.6%)とも前年を下回る計画となっている。新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、鳥インフルエンザ発生の場合と異なり、生産面で直接の影響はないものの、処理場従業員等が罹患した場合のBCP対策が課題になると考えられる。消費面では、インバウンド需要の激減、小中高校の休校による学校給食の停止、大規模イベント等の中止・自粛や夜間の外出自粛等による鶏肉消費の落ち込みが激しくなっている。逆に肉食需要の高まりから、直近では量販店等で荷動きが見られる、鶏肉相場は落ち込みもせず、弱保合程度の推移に留まっている。しかし、自粛ムードが長期化すれば外食も含め鶏肉全体の消費停滞も考えられるため、早い終息が望まれる。	生産状況 単位:千羽、千トン、%																																																																																	
			<table> <tr> <th rowspan="2"></th><th colspan="2">R2年2月推計実績</th><th colspan="2">R2年3月計画</th><th colspan="2">R2年4月計画</th><th colspan="2">R2年5月計画</th></tr> <tr> <th>数量</th><th>前年比</th><th>数量</th><th>前年比</th><th>数量</th><th>前年比</th><th>数量</th><th>前年比</th></tr> <tr> <td>入雛羽数</td><td>61,965</td><td>106.4%</td><td>61,156</td><td>99.5%</td><td>62,076</td><td>99.5%</td><td>62,049</td><td>100.8%</td></tr> <tr> <td>処理羽数</td><td>59,621</td><td>107.2%</td><td>62,067</td><td>101.9%</td><td>61,709</td><td>102.9%</td><td>59,863</td><td>99.8%</td></tr> <tr> <td>処理重量</td><td>178.2</td><td>108.2%</td><td>185.1</td><td>102.6%</td><td>183.4</td><td>101.9%</td><td>178.5</td><td>97.6%</td></tr> </table>		R2年2月推計実績		R2年3月計画		R2年4月計画		R2年5月計画		数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	入雛羽数	61,965	106.4%	61,156	99.5%	62,076	99.5%	62,049	100.8%	処理羽数	59,621	107.2%	62,067	101.9%	61,709	102.9%	59,863	99.8%	処理重量	178.2	108.2%	185.1	102.6%	183.4	101.9%	178.5	97.6%																																					
	R2年2月推計実績		R2年3月計画		R2年4月計画		R2年5月計画																																																																													
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比																																																																												
入雛羽数	61,965	106.4%	61,156	99.5%	62,076	99.5%	62,049	100.8%																																																																												
処理羽数	59,621	107.2%	62,067	101.9%	61,709	102.9%	59,863	99.8%																																																																												
処理重量	178.2	108.2%	185.1	102.6%	183.4	101.9%	178.5	97.6%																																																																												
産	2. 輸入	(1) 財務省が3月27日に公表した貿易統計によると、2月の鶏肉(原料肉)輸入量は43.9千t(前年比105.9%)で、日本食肉輸入協会が予測(45.1千t)を約1.2千t下回った。国別ではブラジルが予測を約1.4千t下回る32.1千t(同100.1%)、タイはほぼ予測と通りの10.5千t(同125.4%)となった。同協会(3月19日取り纏め)によると3月41.4千t(同104.7%)・4月43.1千t(同91.2%)と予測されていて「3月現在、畜産物全般にわたり消費の伸び悩みが続いており、鶏肉消費も新型コロナウイルスの影響が顕著になって以降、外食向け需要が大きく落ち込み、中食向けも減少に転じた。このため、外食需要主体の輸入物の荷動きが極めて悪くなっている。また、ブラジル産、タイ産とも中国向けが停滞傾向にあるが、市中相場に思ったほどの影響はない。今後は弱含みで推移する可能性があり、このような状態がいまままで続くかは新型コロナウイルスの動向次第。」とコメントしている。 (2) 鶏肉調整品の2月輸入量は32.0千t(前年比90.3%)と、前月よりは7.3千t減少した。前月に続き40千t割れとなった。国別ではタイ産は前年比102.9%の25.0千tと増加したものの、中国産は国内での新型コロナウイルスの感染拡大等で製品の製造や物流の混乱等で同61.6%の6.6千tと大幅に減少した。3月以降もこの傾向は変わらず、当面は中国の国内向け需要増もあり調整品全体の輸入減少が見込まれる。	輸入動向 単位:千トン、%																																																																																	
			<table> <tr> <th rowspan="2">品名</th><th colspan="3">鶏肉</th><th colspan="3">調製品</th><th colspan="3">合計</th><th colspan="2">比率</th></tr> <tr> <th>当年</th><th>前年</th><th>前年比</th><th>当年</th><th>前年</th><th>前年比</th><th>当年</th><th>前年</th><th>前年比</th><th>鶏肉</th><th>調製品</th></tr> <tr> <td>R元年11月</td><td>48.8</td><td>43.2</td><td>113.1</td><td>45.2</td><td>50.0</td><td>90.3</td><td>94.0</td><td>93.2</td><td>100.9</td><td>51.9</td><td>48.1</td></tr> <tr> <td>R元年12月</td><td>44.9</td><td>47.0</td><td>95.6</td><td>46.9</td><td>46.1</td><td>101.6</td><td>91.8</td><td>93.1</td><td>98.6</td><td>48.9</td><td>51.1</td></tr> <tr> <td>R2年1月</td><td>41.6</td><td>42.0</td><td>99.2</td><td>39.3</td><td>42.4</td><td>92.7</td><td>80.9</td><td>84.4</td><td>95.9</td><td>51.4</td><td>48.6</td></tr> <tr> <td>R2年2月</td><td>43.9</td><td>41.5</td><td>105.9</td><td>32.0</td><td>35.4</td><td>90.3</td><td>75.9</td><td>76.9</td><td>98.7</td><td>57.9</td><td>42.1</td></tr> <tr> <td>R2年累計</td><td>85.5</td><td>83.4</td><td>102.5</td><td>71.3</td><td>77.8</td><td>91.6</td><td>156.8</td><td>161.2</td><td>97.3</td><td>54.5</td><td>45.5</td></tr> </table>	品名	鶏肉			調製品			合計			比率		当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品	R元年11月	48.8	43.2	113.1	45.2	50.0	90.3	94.0	93.2	100.9	51.9	48.1	R元年12月	44.9	47.0	95.6	46.9	46.1	101.6	91.8	93.1	98.6	48.9	51.1	R2年1月	41.6	42.0	99.2	39.3	42.4	92.7	80.9	84.4	95.9	51.4	48.6	R2年2月	43.9	41.5	105.9	32.0	35.4	90.3	75.9	76.9	98.7	57.9	42.1	R2年累計	85.5	83.4	102.5	71.3	77.8	91.6	156.8	161.2	97.3
品名	鶏肉				調製品			合計			比率																																																																									
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品																																																																									
R元年11月	48.8	43.2	113.1	45.2	50.0	90.3	94.0	93.2	100.9	51.9	48.1																																																																									
R元年12月	44.9	47.0	95.6	46.9	46.1	101.6	91.8	93.1	98.6	48.9	51.1																																																																									
R2年1月	41.6	42.0	99.2	39.3	42.4	92.7	80.9	84.4	95.9	51.4	48.6																																																																									
R2年2月	43.9	41.5	105.9	32.0	35.4	90.3	75.9	76.9	98.7	57.9	42.1																																																																									
R2年累計	85.5	83.4	102.5	71.3	77.8	91.6	156.8	161.2	97.3	54.5	45.5																																																																									
需	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、1月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は3,600g(前年比93.6%)、金額は5,482円(同95.3%)となった。前年より気温が高く鍋物需要が低調だったことや節約志向の高まり等が影響したと思われる。牛肉は数量(同92.1%)・金額(同94.1%)とも下回り、豚肉も数量(同92.8%)・金額(同95.2%)とも下回った。鶏肉についても同様でテーブルミートの販売が低調で数量(95.1%)、金額(同97.1%)とも下回った。しかしながら金額でハム、ベーコン等の加工肉(同101.4%)、鶏卵(同101.3%)、調理食品(同105.2%)が昨年を上回った。	鶏肉の消費動向(2人以上の世帯) 単位:グラム、円、%																																																																																	
			<table> <tr> <th rowspan="2">履歴</th><th colspan="3">数量</th><th colspan="3">金額</th></tr> <tr> <th>当年</th><th>前年</th><th>前年比</th><th>当年</th><th>前年</th><th>前年比</th></tr> <tr> <td>R元年11月</td><td>1,452</td><td>1,461</td><td>99.4</td><td>1,309</td><td>1,339</td><td>97.8</td></tr> <tr> <td>R元年12月</td><td>1,625</td><td>1,765</td><td>92.1</td><td>1,605</td><td>1,665</td><td>96.4</td></tr> <tr> <td>R2年1月</td><td>1,358</td><td>1,429</td><td>95.0</td><td>1,309</td><td>1,348</td><td>97.1</td></tr> <tr> <td>R2年平均</td><td>1,358</td><td>1,429</td><td>95.0</td><td>1,309</td><td>1,348</td><td>97.1</td></tr> </table>	履歴	数量			金額			当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	R元年11月	1,452	1,461	99.4	1,309	1,339	97.8	R元年12月	1,625	1,765	92.1	1,605	1,665	96.4	R2年1月	1,358	1,429	95.0	1,309	1,348	97.1	R2年平均	1,358	1,429	95.0	1,309	1,348	97.1																																								
履歴	数量				金額																																																																															
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比																																																																														
R元年11月	1,452	1,461	99.4	1,309	1,339	97.8																																																																														
R元年12月	1,625	1,765	92.1	1,605	1,665	96.4																																																																														
R2年1月	1,358	1,429	95.0	1,309	1,348	97.1																																																																														
R2年平均	1,358	1,429	95.0	1,309	1,348	97.1																																																																														
要	2. 量販・卸	(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、2月の食品売上高は全店ベースで前年比106.8%と大きく上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比105.3%、既存店ベースでも同103.8%と上回った。畜産部門の売上高は1,035億円が全店ベース(同108.5%)、既存店ベース(同106.9%)とも上回った。「新型コロナウイルスの影響による肉食需要により客数増が売上に底上げした。牛肉は価格が低下傾向にあるなか、焼肉用や挽肉が好調となった。輸入牛や大容量の販売が好調だった。豚肉は特に動きがよ、切り落としや小間切れが好調となった。鶏肉も引続き好調だった。備蓄用として、冷凍肉や味付き商品やハムやソーセージなどの加工肉も好調となった。」と報告されている。また、惣菜部門(同107.3%・同105.8%)についても外食の代替需要として弁当類や天ぷら、フライ、高い気温によるサラダ類や冷総菜が好調。新型コロナウイルス対策で、家庭で過ごす時間が増加することによる家庭内消費や肉食需要の高まりから、この傾向は当面継続すると予想され、食品スーパー等での需要増に期待するむきもある。	相場(年別・暦年) 単位:円																																																																																	
			<table> <tr> <th>履歴</th><th>もも肉</th><th>むね肉</th><th>計</th></tr> <tr> <td>H26年</td><td>626</td><td>294</td><td>920</td></tr> <tr> <td>H27年</td><td>639</td><td>336</td><td>975</td></tr> <tr> <td>H28年</td><td>621</td><td>255</td><td>876</td></tr> <tr> <td>H29年</td><td>626</td><td>315</td><td>941</td></tr> <tr> <td>H30年</td><td>595</td><td>282</td><td>877</td></tr> <tr> <td>R元年</td><td>585</td><td>243</td><td>828</td></tr> </table>	履歴	もも肉	むね肉	計	H26年	626	294	920	H27年	639	336	975	H28年	621	255	876	H29年	626	315	941	H30年	595	282	877	R元年	585	243	828																																																					
履歴	もも肉	むね肉	計																																																																																	
H26年	626	294	920																																																																																	
H27年	639	336	975																																																																																	
H28年	621	255	876																																																																																	
H29年	626	315	941																																																																																	
H30年	595	282	877																																																																																	
R元年	585	243	828																																																																																	
庫	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる1月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比89																																																																																		